

## D-1 成果と今後の課題

### 成果と今後の課題

#### ア 成果

基礎的・基本的な知識、技能の定着に向けて取り組んでいる既習事項の確認は、図形領域以前は、計算問題を2～3題、図形領域では、「音声トレーニング」に取り組んできた。取り組む計算問題は、本時の内容に関連のあるものにした。いずれも、短時間で、毎時間取り組むことから、あきらめず取り組む生徒が増えてきた。また、図形領域の「音声トレーニング」では、ペアで取り組むことから、授業開始前から互いに確認しあう姿が見られ、学び合いの雰囲気作りの一助になっている。

授業で取り上げた課題は、もともと生徒の気持ちにある、「分かりたい」という思いが、前面に出て、いろいろな発見を互いに交流しあいながら学習を進めることにつながった。問題を解決するために細かなステップを、丁寧に確認しながら解くことができた。

ペア学習やグループ学習では、互いに既習の学習内容を確認め合いながら、論理的に説明を構築していた。グループで作った解答は、各自が自信を持って黒板に出て説明することができ、また、その生徒が黒板に出て説明することが、他の生徒の集中する場面をつくることにつながった。個人からグループへ、また、グループから全体へ自然発生的に授業が進むようになった。

#### イ 課題

表現力を身につけることにおいては、数学的表現を用いてとなるとまだまだ不十分である。全体発表のとき、少しずつ数学的な表現を増やしながら、説明させていくことにした。特に数学科の表現力育成のためには、言葉や図、式、表、グラフを用いるなどして、根拠をはっきりさせ筋道を立てて説明することができるように、計画的に取り組んでいかなければならない。

また、具体物やワークシートを用いて授業を進める際は、生徒の思考の妨げにならないように、活動の内容や場面を考慮して取り入れなければならない。